

## 1pH02

コムギ種子発達過程における休眠関連遺伝子の発現

川上直人、野田和彦<sup>1</sup>（横浜市大・木原生研、<sup>1</sup>岡山大・資生研）

休眠を持つ正常系統のコムギ種子胚には存在するが、完熟時に休眠を示さない突然変異体の種子胚には蓄積しないタンパク質、“ポリペプチドe”を見いだした。種子発達過程におけるポリペプチドe遺伝子の発現様式を調べるため、ポリペプチドeの完全長cDNAを単離した。スクリーニングの過程で、ポリペプチドe cDNAと70%程度の相同性を持つ2種のcDNAも得た。ポリペプチドe遺伝子の発現は胚の形態形成終了後、水分の減少とともに明らかとなり、成熟過程で増加した後減少した。この発現量の変化は、胚におけるABA量の経時的変化と一致する。ところが、ポリペプチドeのmRNA量は胚をABAで処理しても増加せず、未熟種子および一度吸水した休眠種子を乾燥させると増加した。低湿度下で成熟したコムギ種子は、高湿度下で成熟した種子よりも強い休眠性を示すことが知られている。したがって、ポリペプチドeが種子の休眠性に役割を担っている可能性がある。

## 1pH03

シロイヌナズナのアブシジン酸欠損変異株の解析